



2022年3月14日

各 位

株 式 会 社 光 ・ 彩
 代表取締役社長 深 沢 栄 二
 (J A S D A Q ・ コード 7 8 7 8)

問合せ先
 管理部部長 上田 益孝
 TEL 0551-28-4181

通期業績予想修正及び法人税等調整額(益)に関するお知らせ

当社は、2022年3月14日の取締役会において、2021年9月10日に開示した2022年1月期(2021年2月1日～2022年1月31日)の業績予想を修正することといたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 当期の業績予想数値の修正 (2021年2月1日～2022年1月31日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	2,700	120	120	75	200円41銭
今回発表予想 (B)	2,989	13	17	30	82円04銭
増減額 (B-A)	289	▲107	▲103	▲45	—
増減率 (%)	10.7	▲89.1	▲85.8	▲60.0	—
(ご参考) 前期実績 (2021年1月期)	2,117	1	42	24	65円45銭

2. 修正の理由

当期の売上高は、コロナウィルス感染症流行により事業活動を抑制してきた国内及び海外のジュエリーパーツ製品の取引先からの事業活動再開に向けた受注活動の増加等により2021年9月に業績予想の上方修正を発表しました。その後、当社の強みである鍛造技術を活かして販売拡大を企図したジュエリー商品の受注増加につながったことや海外からの受注が増加したこと等により、2021年9月時点で見込んでいた売上高を上回ることとなりました。これに伴い、当期の業績予想売上高を2,989百万円に修正いたします。

一方、業界環境としては原材料価格が上昇している中、受注増に対応するため原材料の仕掛品投入を大幅に増やしました。また、最近の製品構成に合わせ、仕掛品在庫及び加工費の配賦に係る算出方法を、期初にさかのぼって修正したことにより、仕掛品在庫及び製品在庫の評価が大きく減少し、営業利益が大きく圧縮される見込となりました。具体的には、従来は加工中の原材料のへりを考慮した非度外視法を採用しておりましたが、これによると資産がへりを考慮しない場合よりも大きく計上されます。近年へりが大きい鍛造製品の受注が増加しており、資産が過大に計上されるのは好ましくないとの観点から、へりを考慮しない度外視法に修正したものです。

なお、2022年1月期第1四半期から第3四半期までの決算については、当該算出方法の変更に伴う修正は行わない予定です。

また、以下3. のとおり、法人税等調整額(益)14百万円を計上することといたしました。以上の結果、営業利益13百万円、経常利益17百万円、当期純利益30百万円に修正いたします。

3. 法人税等調整額(益)の計上

2022年1月期第4四半期会計期間において、回収が見込めないことが確定した貸倒引当金を取り崩し法人税等調整額(益)14百万円を計上する見込となりました。

以 上